プロ・ライフ・ムーブメント
1992年6月 No.29
PRO-LIFE NEWS
（中絶に反対する運動）
〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

# 中絶が父親にも影響を及ぼす

男性は本当の所どのように感じているのか？

予期せぬ妊娠を初めて知らされたとき、男性は当然の事ながらショックを受ける。自分の無力さや挫折感を周囲に訴えたいと思いながらも、相手の女性が自分の助けを必要としている事に気がついて、自分の重たい気持ちを必死に抑えようと努める。ある男性の経験した事を例に取ってみよう。

「妊娠は私の責任でもあるわけで、その意味では私もきちんと責任を取りたいと思いました。でも最初から女性の方に余裕がないと言う事に気がついたのです。だから私は自分の気持ちを考えるのは二の次だと悟りました。悠々と座り込んで、中絶に付いて考えるなどと言う余裕は私にはなかったのです。とにかく彼女が何とかこれを乗り越えられるようにする事が必要だった訳ですから。」

実際、男性は女性の要求や願いが一番大切なものだと自分に言い聞かせる事により、「気をもむ支持者」の役割を演じているつもりになるのです。「今まで生きてきて、この中絶問題は自分が事に関わっているのだと感じた数少ない経験の一つでした。だのに私には最終的な決断を下す事が出来なかったのです。その時、中絶に付いては余り賛成できなかったのですが、やはり最終的にはそれは女性の決める事だと思いました。

男性は自分の愛情と支えの気持ちを伝える事により、相手を守るために、努力をしていると言う確信をもてなければならない。それにはまず男性らしい事をする必要がある。ある調査によると、男性は父親としてやるべき事をして、相手の女性や周囲の友達の理解を得ようとしている事が分かる。調査の対象になつた1000人の男性のうち、42％が相手の女性と結婚して、子どもを育てる事を望んでいる。又、女性が子どもは産むが結婚はしたくないと言う場合、25％の人は養育の援助をすると答えている。そしてほとんどの男性が中絶にかかる費用は全て持つと答えている。

だが、女性に対して支援的な男性が多い中、彼らの多くは中絶の道徳的な善悪を考えずにはいられないようだ。先ほどの調査の1000人中39％が生命は受胎の時点で始まっていると考え、26％が中絶の手段は「子ども殺し」だと考えている。

つまり中絶に賛成しているように振る舞っている男性にも、実は次のような不安があるのです。

A・女性の健康を脅かすという不安

B・妊娠を防げなかったという後悔

C・中絶を自分のせいにされるのではないかという不安

D・危機を乗り切れるかどうかの自分に対する疑問

E・子供を失う悲しさ、二人の関係が変わってしまう悲しさ、そして中絶経験そのものに対する悲しみ

# 十代のセックスの結末
# その現実から逃れるには
## （第三部）

### 5・罪悪感からの解放

セックスとは結婚と結びついた行為である。これは人間の心のどこかで意識されているから、文化や宗教に違いがあるにしても、このことはある意味では世界中で常識となっている。「誰もがやっていること」として真実を歪めてセックスを描写する様々な宣伝にも関わらず、ほとんどの若者は結婚をしていない男女間でのセックスは間違っていると、心のどこかでわかっているはずだ。彼らが自分のセックスの経験談を他人に自慢げに言いふらす行為がその証拠で、そうすることで彼らは他人に受け入れてもらい、自分たちの罪の意識をごまかそうとしているのである。又、まったく反対に秘密主義になってしまうタイプもある。この現象は少年だけでなく、少女にもあてはまる。セックスという行為を単に歯を磨くぐらいの感覚にしか思っていないのは自分の良心に対して無感覚になったものだけである。意識的にしろ、無意識的にしろ、自分の罪の意識を抑圧しようとすると、その反動が現れてくる。「結婚前に性関係は持たないこと」～セックス行為に対する罪の意識から逃れる方法はこの一つしかない。

### 6・性病からの解放

昔のいわゆる性病と呼ばれていたものが今は性行為感染症（STD）と呼ばれ、やはり今も問題となっている。一九七九年にはアメリカ合衆国だけでも淋病の新患者が180万、梅毒の新患者が8万2千にも上ると推定されている。一九六〇年から一九八五年の間の増加率はすさまじく、淋病は300％もの割合、梅毒は260％もの割合で増加している。

このような性病に対して、過去に使用されて効果を発揮してきた抗生物質剤も今や効力が弱まり、効力ゼロというケースさえある。というのは、抗生物質に強い新種のものが現れてくるからである。一方、コンドームの使用がこのような性病に感染するのを防ぐ手段として信頼されているが、これも決して100％安全とは言えない。唯一感染しないためには貞節を守ることだけである。ヘルペスII型は感染性性病の一つで治療法はまだ知られていない。一生続く可能性もあり、病状が活性化したかと思えば休止状態に陥る傾向がある。病状が活性化した状態では生殖器系に激痛を感じたり、水膨れができたりする。オーラルセックス（口を使ってするセックス）はヘルペスII型が発生する原因となる。

クラミジア感染症がもし未治療だと骨盤の炎症性病を引き起こす原因となる。この病気はこれによって女性が不妊になる可能性もあるもので、これにかかると女性は膣系の箇所にはっきりとした痛みを感じるというよりは子宮が感染する。そのため、この病気を初期の段階で発見するのは難しい。又、ヘルペスII型と同様に出産の時胎児にも感染して、クラミジア肺炎などを起こす事もある。

エイズ（後天性免疫不全症候群）は最近発見された性行為感染症で、赤ん坊の感染に対する低抗力を弱め破壊するため命に関わる病気である。その感染の第一の原因には体液の交換があげられる。しかし、唾液の中にもウイルスが発見されたことにより、生殖器への接触はもちろん、ディープキスも感染の原因として無視できない。

### 7・子宮頸癌からの解放

若い女性のかかる子宮頸癌と彼女たちの早い性的行為のかかわり合いは増加している。医学的にはっきりとその理由は解明されていないものの、女性が初体験の年齢が若いほど、また複数の男性と関係を持つほどこの子宮頸癌にかかりやすいようである。しかし、このような不当なセックスだけが子宮頸癌の唯一の原因であると言っている訳ではない。K・Eグランツ氏は一九八四年後半に出版した研究の中で、子宮頸癌の感染の原因として、このような性的行為と深く関わり

合っていることからこの病気が性行為感染病と呼ばれる性質のものであることを強く主張している。

ある種のウイルスがこの癌の原因の一部であること、若い男性がこのウイルスの運び手になり得ることは医学的に証明されている。その結果、男性が若い時に性的関係を持った女性からもらったウイルスを何年か後に自分の妻に移す可能性が出てくる。

子宮頸癌は早期発見されれば治療できるが、この病気そのもの、もしくは治療が原因で女性が不妊の体となる可能性があり、もし発見が遅れたら命に関わってくる。真実の意味での治療法は一つしかない。このような病気に関わらないため、ウイルスの運び手にならないために貞節を守ることである。

## 人間・二つの命

自ら進んで病気になりたいと言う人はいないでしょうから、誰でも自分の健康に注意します。又、神様から頂いた「体」をタバコのすいすぎやアルコール中毒にならないようにいつも気をつけます。

私は、人間には二つの命があると考えます。それは「体の命」と「心の命」です。人間は肉体と心(精神)からなっており、それぞれが調和を保ちます。我々、人間は「心身の健全さ」があって初めて幸福を体験いたします。心の健康を考えてみた時、一番大事な事は、心の持ち方、自分に対する態度、他人に対する態度、神に対する態度です。

「心」は神様の限りない愛によって与えられました。「心」の役目は常にすべての人々を大切にする事です。しかし、いったんこの「心」が自分の思いだけにとらわれてしまうと「心」は病気になってしまいます。ねたみ、憎しみ、人を許せない心、軽蔑、わがまま、欲張りなど、こうした「心」の状態は「体」に深い影響を及ぼします。又、大きな悲しみや余計な心配は体に悪い影響を与えるので、その事で病気になる事もあります。

「体」と「心」が健全であれば、我々の「命」は生き生きとしたものとなり喜びにあふれます。人によっては「落ち着き」と「自信」、「生きがい」さえ生まれてくるかも知れません。

「体」の健康は大切な事ですが、しかしその前に何よりも、まず「心の健康」が一番大切ではないかと私は思います。つまり、「兄弟愛」に満ちた心こそ一番大切な事なのです。

「心」は不思議なものです。体は年々衰えていきますが、心は年を取れば取るほど、今まで以上に愛に満ち、さらに寛大、親切になって元気になる事ができます。又、心は病気(例えば自己中心的な心から来るもの)になっても、いつも「後悔」「悔い改め」と言う素晴らしい薬によって治す事が出来ます。

若い人達が、相手を尊敬しながら、男女交際によって人間として成長する事は、素晴らしく幸せな事です。私は、若い人達がエロチックなビデオや映画、雑誌などによって自分を汚す事なく、清い心をもって、生き生きとした「体」と「心」の命を持って欲しいと願っております。健全な体と心で若い人達に幸せになって欲しいのです。

私達、人間は素晴らしく偉大なものです。又、素晴らしい使命感を持っています。我々、人間が、お互いに尊敬しあい助け合って、共に「人の道」を歩む事、これが私達の使命なのです。

エリック・タンペ神父

# 国内ニュース

## 産む、産まないの選択権

「産む、産まないの選択権は女性にあると主張する派」のことをプロ・チョイスというのだということを私はこの記事によって教えられたが、こういう問題がヒューマニズムの一環として堂々と論議されること自体がおかしい。

生みたくなければ、避妊を徹底するか、性行為を止めることしかない。なぜなら、妊娠は性行為なくしては成り立たないからである。快楽のための性行為の結果、「発生した」生命を奪うことが女の「権利」であり「自由」であるなどという勝手な論理は、どこにもないのである。

しかし私は人工妊娠中絶を何が何でも悪いと言っているのではない。人間が自分の生活や都合のために、人の命を奪うこともある、と承認するなら、人工妊娠中絶も(善悪は別として)人間的な行為になる。

中絶は、どう考えても、明確な殺人である。このことは前にも書いたが、再び書くことにする。それも、もっとも弱い、抗議の声さえあげられない命を抹殺することである。アウシュヴィッツがもし悪いというなら、この胎児殺戮はその数においても残酷さにおいても、アウシュヴィッツ以上である。アウシュヴィッツはいつでも繰り返され得るし、現に繰り返されながら、かつてのアウシュヴィッツと同様に、それは、必要なことだと言われ続けているのである。歴史は皮肉である。そして人間の眼も恐ろしく暗いものである。

しかし私たちが、別に戦争に参加しなくても、中絶という形でたやすく人を殺し得る、ということを承認する時だけ、中絶もまた、他の様々な人間の行為と同様の悲しみと共に、これもまた人間が関与していることだ、という意味でのヒューマニスティックな重さを失わないでいられる。

曾野綾子著
『夜明けの新聞の匂い』
より抜粋

# 国際ニュース

## プロ・ライフ活動の諸報告

### チリ

チリ国家が行っているプロ・ライフ活動はこのほどその活動の概観を発表しました。1年間にコンセプシオン市だけで300人以上の子どもが人工中絶から救われたが、サンティアゴでは183人が救われただけだった。

運動団体は教育に関して、教育資料を作成、配布し、学校や大学など専門機関で講義を行い、また、街頭でキャンペーンも行った。最も成功したキャンペーンの一つは「胎児の日々」だった。活動員たちはプロ・ライフの教育的表示を掲げ、通行人にパンフレットを配った。子どもたちはキャンディをもらい、通りかかった妊婦にはお腹の中の子どもの存在を祝福して、花が渡された。

### パラグアイ

プロ・ライフの指導者からの報告によると、180人以上の母子が運動によって、中絶から救われた。更に子どもを養子に出そうと考えていた夫婦の多くが、自分達の元で育てられるよう援助を受けた。運動団体は生徒や教区民や他の機関に対して、152の講演を行った。現在、妊婦を受け入れるための建物が建設されている。

### 韓国

「一人一人の人間は全世界よりも尊い」これは未婚の妊婦のためのプロ・ライフ・センターのモットーである。センターは妊婦達に「キリスト教徒の生活や健康、母親と赤ん坊の世話、そして、赤ん坊と彼女達自身の将来の計画に関する講義」に参加する機会を提供している。

### ニュージーランド

胎児保護のための最近の会議で、参加者が最も関心を抱いた事の一つが堕胎RU－486だった。参加者の一人は妊婦に無意識に妊娠中絶を誘導する抗胎児ワクチンの開発におけるWHO(世界保健機関)

の役割に注意を引いた。ニュージーランドでのプロ・ライフの活動について議長は次のように述べている。「我々は希望を持って生き、悲嘆している母親たちに希望の光を与えなければならない。」

## 読者の声

### こうしてはおれない！

「命の尊さ」をひしと感じられるビデオを施設の子どもたち、職員と一緒に何回も見せて頂きました。

今の世の中で23秒に一人の幼子が殺されていく現実を知り、こうしてはおれない！と言う責任をも自覚させられました。

早速、地域の公立中学校や私立高校などの保健関係者の方に呼びかけてビデオや本の資料を紹介しております。

仙台市Tさん

### 結婚講座でも

ビデオ「沈黙の叫び」は昨年、宝塚カトリック教会で、そこの信者で看護婦さんのKさんのお世話で見て、心を動かされました。今回、カトリック大阪教区、岸和田宣教地区合同の結婚講座で若い人々にぜひ見せたいと考えております。

岸和田市Kさん

### 小学校教育でも

いつもプロ・ライフお送り下さりありがとうございます。性教育のスライドを作成し、小学校教育に使用しようと思っています。

熊谷市Hさん

## 若者の声

### では どうすればよいのか

中絶と言う行為は、やはり無謀な逃げ道にすぎないと思います。しかし、望まれない妊娠とはもちろん女性と同様に、男性にも責任があるはずです。中には全く男性のわがままから生じる事もあります。そういう意味でもこのビデオにあるような事実は男性にも広く知ってもらう必要があるのではないでしょうか。私達はこのビデオを残酷だと言う感情でよってのみ見るべきではないと思います。何故このような残酷な行為が合法化されるまでに至ったのか。残酷だ、中絶はいけないと感じたなら、ではどうすればこの膨大な中絶件数を一件でも減らす事が出来るのかを考えるべきです。つまり、私達女性と男性一人一人が自分たちの行動に責任を持たなければいけないと言う事でしょう。

（高校生）

### 命の喜びを

正直に言って、初めに出てくる言葉は、「信じられない」と言う事です。中学の時から妊娠や中絶の事は、保健の授業などで聞いていて、それなりの事は知っていたつもりだったのに、今日このビデオで、本当に自分が何も知らなかったのだと思いました。お母さんのお腹の中にいる子どもだって、私が18年前に母のおなかの中にいた時と全く同じ状態だったのだと思うと、今自分が両親から愛されて生まれてきたのだ、本当に生んでくれて良かったと言う気

持ちで一杯です。胎児には全く罪はなく、彼らは、ただ一人の人間として生を受けたかったに違いありません。それなのに、大人の、言うなれば当事者の勝手な都合で、その生命の喜びすら感じる事が出来なかったのです。日本でも10代の中絶が増えているようですが、そういう人達にも、自分は一人の人間を殺しているんだと言う事を示すべきだと思います。私はこのビデオを見て、深い憤りを感じました。

（高校生）

## 正しい認識と愛をもとう

妊娠中絶は本当に一人の人間の命を奪うものなのだと改めて実感しました。アメリカだけでなく日本でも多くの妊娠中絶があると知っています。それは病気で仕方なくではなく、認識が貧しかったり、安易に考えすぎている10代の中絶が多いのです。このような映像を見ると、本当に胸がいたいです。無抵抗な赤ちゃんを自分の都合で殺してしまうのは人間として最悪と思います。妊娠したくても、出来ない人がいるのに。中絶してつらいのは赤ちゃんと、やはりその事を一生考え、背負い続けなければならない、又、不幸にも不妊になってしまった女性だと思います。男性は、どのように中絶を受けとめているのだろうか。私は十分男性側にも責任があるのではないかと思います。やはりすべての人が命の貴さを考えて、正しい認識と愛を持つべきだと思いました。

（高校生）

## 赤ん坊だけでなく女性も愛せよ

今まさに中絶の危機の中にいる女性の心を得るには、彼女に対して誠実さを示すことである。もしあなたが赤ん坊を助けたいなら、彼女の心に近づかなければならない。それは、赤ん坊を助けるだけではなく、彼女を魂の苦しみから救い出し、神の愛のメッセージと赦しをもって彼女の心に近づいているのである。

多くの女性は周りから中絶するようにと圧力を受けている。恋人、家族、友人、経済的事情、医師さえもが彼女に圧力をかける。彼女達の問題は、「選択」という点ではなく、彼女の人生で個人的な痛みと大いに関係している。危機感とストレスの中で、彼女はより良い判断ができないような方向に圧力をかけられているかも知れない。自分の体内に育っている赤ん坊を中絶することは、女性にとって自然なことではない。外見的には非常にかたくなに見えても、心の奥深いところでは、彼女はその事実を認識している。おそらく否定の意識の積み重ねの中におかれているか、もしくは単にショックに直面しているのかも知れない。あなたの声こそが、唯一彼女の内部にある意識を呼び起こし、彼女自身の自己欺瞞を打ち破るものであるかも知れない。多くの女性が中絶という非常手段に訴えなければならない状況を理解し、彼女たちを愛さなければならない。

しかし良心を持ち合わせず、後悔もしていないかのように中絶を繰り返す女性が時折いる。彼女たちは望みがないほど誤った道を歩んでおり、誰よりも神の愛を必要としている。彼女たちの生活には中絶をしのぐ否定的側面や悪習慣がある場合が多いのです。人々がひどい人生を送るのを見守るのは辛い事であるが、彼女達は本当は惑わされているのである。あなたの愛と真実のことばが彼女たちにとどき、いつの日か正しい方向に彼女たちを向けるであろう。

プロ・ライフ・ムーブメント
ノボトニー・ジェリー
OMI

## 出生率低下に悩む日本

九州の大分市で行われた「母子の健康と家族計画」の講演会に出席した人々は次の事を調査している。日本ではなぜ出生率が低いのかと子供の健康についてである。各地から集まった2000人の人々は日本の人口統計学上に現れた状態の重大さに聞き入った。

「1989年の日本の出生率は1．57で、1990年には、1．53までに減少した。わずか6年前の一九八五年の調査では、どの年代にも二人の子供がいた。しかし、今の比率は1対1である。2000年に達したとき、日本の老人数の割合は世界一となり、65才以上の人口は総人口の17％を占めるだろう。

それでは、博士の提案する解決法とは何だろうか。

「企業も政府も子供を育て易い環境づくりの大切さを見逃してはいけない。」という事である。

講演会のレポートで、ある地方では出生率の減少をひっくり返すような事もあると発表された。講演会が開かれた大分県の48中47の地方自治体では活気的な計画を打ち出し、出生率を増加させた。それらには妊娠中の母親と3才以下の子供は無料で診察を受けられるものや、結婚率と出生率を増加させるため経済的援助金を配るものもある。

## ABORTION
QUESTIONS & ANSWERS

★第二次世界大戦中ドイツでは、ユダヤ人は人間ではないと言われた。まだ生まれていない子供～人間ではないと言われる子供～に基本的に、法廷と法律は、役だっていないのではないか。

その通りです。

★中絶は、人間として認めないことによって弱い人々を抹殺する思想につながるのか。

中絶は安楽死につながる。もし赤ん坊が障害を負っていたなら生まれようとするその生命を終わらせるだろう。中絶支持者の最終目的は、人間がまだ子宮の中だろうが、あるいは安らぐ家の中であろうと、どこで生きていても、そうした傷害を持った人間を排除することを受け入れやすくすることである。

## 《事務所だより》

南の国からやってきた燕が、子育てに餌を探して、五月晴れの空を元気に飛び回る頃となりました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

5年間、廊下の端っこで頑張ってきたプロ・ライフの事務所も隣のお部屋もつかわせて頂けるようになり、随分、広くなりました。そして、一人の仲間もお迎えして、にぎやかに過ごしています。彼女は小学一年生と幼稚園児のお母さんで、沢栗さんと申します。この頃、ニュースと共に送っている用紙でお知り合いの方をご紹介下さる方が増えてきています。この運動を御理解頂き、お骨折り頂いている事に心から感謝申し上げます。

さて、「世界生命の日・記念大会」にプロ・ライフからも三名参加いたしました。長野県の担当者・樽田さんと高知からはノボトニー先生と大岡です。大岡にとっては、今まではお名前のみしか存じ上げなかった、各グループの指導者の方々とお顔見知りになれ、よかったと思っております。高知への帰りの飛行機の中から、まだ頂きに雪をかぶった富士山が、まるでこの会議を主が祝福してくれたかの様に夕日に輝いているのを眺める事が出来ました。

7月11日2時～4時30安田生命ホール（新宿駅西口正面）で、北里大学、坂上正道教授の「お腹の赤ちゃんは命です。」と子供の城国際交流部長、テリー・スザーン女史の「性交教育か命の教育か。」の講演会があります。

最も小さく、弱い生命を

守るための活動、これから
も共に頑張って行けます
ように日々の祈りのうち
に皆様方と共にいます。

日本プロ・ライフ・
ムーブメント